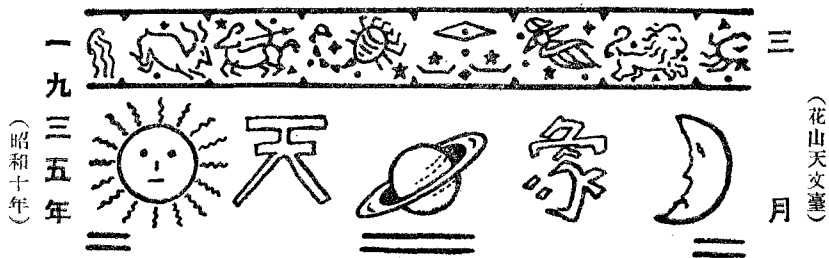


Title	天象
Author(s)	
Citation	天界 = The heavens (1935), 15(167): 198-199
Issue Date	1935-02-25
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2433/166970">http://hdl.handle.net/2433/166970</a>
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher



## I——太陽と月 (天空の明暗)

日付	日 出	(星 座)	日 没	日付	夜半の 月 齢	月 出	(星 座)	月 没
日	時 分		時 分	日	月 齢	時 分		時 分
1	6 28	(みづかめ)	17 35	1	25.3	3 23	(い て)	13 17
6	6 21	ク	17 57	2	26.3	4 9	ク	14 30
11	6 14	ク	18 1	3	27.3	4 52	(や ぎ)	15 45
16	6 7	(う を)	18 5	4	28.3	5 28	ク	17 0
21	6 0	ク	18 9	5	29.3	6 5	(みづかめ)	18 13
26	6 53	ク	18 13	6	0.9	6 37	(う を)	19 25
翌日	6 46	ク	18 17	7	1.9	7 10	ク	20 36
				8	2.9	7 45	ク	21 47
				9	3.9	8 23	(ひ つ じ)	22 55
				10	4.9	9 6	ク	—
				11	5.9	9 55	(う し)	0 4
				12	6.9	10 42	ク	1 1
				13	7.9	11 39	(ふ た ご)	1 54
				14	8.9	12 35	ク	2 39
				15	9.9	13 34	(か に)	3 16
				16	10.9	14 13	ク	3 53
				17	11.9	15 28	(し ゝ)	4 22
				18	12.9	16 23	ク	4 48
				19	13.9	17 20	ク	5 12
				20	14.9	18 16	ク	5 37
				21	15.9	19 14	(を と め)	6 3
				22	16.9	20 14	ク	6 31
				23	17.9	21 16	ク	7 2
				24	18.9	22 19	ク	7 35
				25	19.9	23 20	ク	8 17
				26	20.9	—	(さ そ り)	9 5
				27	21.9	0 17	(へ び つ か ひ)	10 0
				28	22.9	1 11	(い て)	11 4
				29	23.9	2 7	ク	12 13
				30	24.9	2 48	(や ぎ)	13 23
				31	25.9	3 26	(みづかめ)	14 35

## II——天象

日 時 分	天 象
1 19 一	水星が停留
3 20 41	水(南 <sup>6°</sup> )と月と合
4 20 13	土(南 <sup>4°32'</sup> )と月と合
5 2 一	海王星が對衝
7 11 41	火(南 <sup>6°13'</sup> )と月と合
8 16 40	天(南 <sup>6°3'</sup> )と月と合
10 17 一	木星が停留
11 3 一	水星が降交點
16 4 一	水星最大離角(西 <sup>27°37'</sup> )
19 10 37	海(北 <sup>4°58'</sup> )と月と合
21 9 一	水星が遠日點
21 22 18	春分
22 16 一	金(北 <sup>24°</sup> )と天と合
22 17 9	火(北 <sup>8°35'</sup> )と月と合
22 18 一	水(南 <sup>19°</sup> )と土と合
25 2 6	木(北 <sup>5°59'</sup> )と月と合
25 4 一	金星が昇交點
26 4 一	Antares が掩蔽

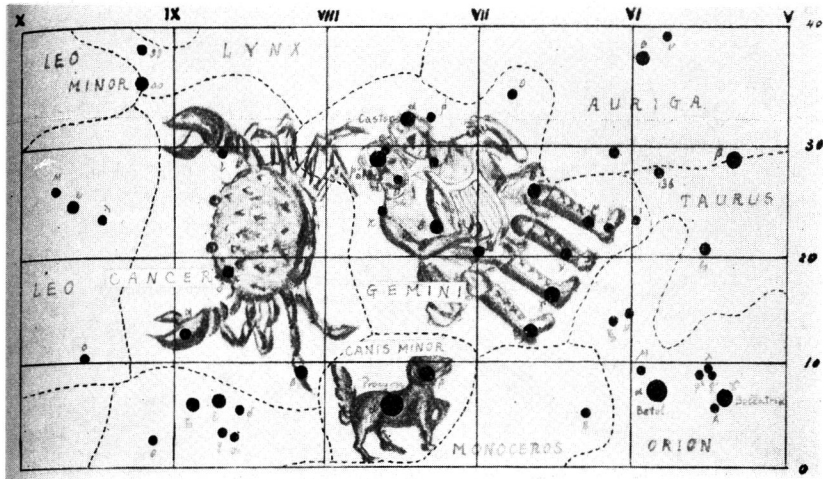
新 月 3月 5日 11時40分  
上 弦 12日 9時30分

満 月 3月 20日 14時31分  
下 弦 28日 5時51分

## 主な流星群

日 付	赤 經	赤 緯	附近の星	性 質
1日—4日	166°	+ 5°	獅子座 $\gamma$	緩
15日頃	250	+54	龍 座 $\eta$	速
18日頃	316	+78	セフェラ座 $\beta$	緩

## —— 三月の星座 —— 「双心始末」



同じジュピタ1の白鳥の卵より生れ出て以来 初めて其の戦に二人は別れたのです。

カスタ1にしてもボラツクスにしてもホンのしばしの別れだと思つて居たのです。

暁の静かなる散光の中に二人は其日の敵を降すべく 別れて行きました。……また會ふ日迄の……それだのにお互ひの 微笑が永遠に絶ち切られたのです……かのとき、……

アイダスの投げ槍はカスタ1の胸を貫いて ボラツクスを悲哀の中に打ちのめしたのです。ボラツクスは今は主なき白馬ケルリスと共に自分の愛馬をも放つのでした。……なき人を思ひ起こさせる数々のものを。

海上に時としてゆらぐ「セント・エルモの火」も今は絶え絶えに 青白く打ち沈み……そしてボラツクスの劔はヴァルカンの 雷電の如く尖鋭に磨きすまされるのでした。其の燐光を放つ刃先は永遠にアイダスの胸に凝せられて居なければならないのです。

されど報復成つて此の英雄の胸に何が残されたでせうか。

地上の因果終れば以前に増して沼の様な憂愁が ボラツクスの心身に滲透するのです。

供にアルゴ1號遠征にたづさはつた 幾夜を思ひ起すのでした。……オルフェウスの竝琴に和して歌つた星月夜……

天と地の距離の間に彼の悲歎は己が生をさへも怨むのでした。

今は父なるデユビ1にカスタ1の身代りを絶叫するボラツクスでした。同時に生を與へられて今は堪え得ぬ愛別死別。叶はざれば一日を供に暮し明くる一日を天と地に引きさかるとも。

二つが連れて夜語る一つ………愛着の互ひに引き合ふところ死別を越えて結ばれる宇宙の法則がなければならないのです。………他あるが故に一つは保たれ………これあるが故に引かるゝ思ひの他。

春の朧夜デユビタ1は此の讀すべき兄弟愛をソツト星座に招くのでした。